

上越数学教育学セミナーのご案内

フランスとスイスからお越しの 2 名の研究者にご講演いただきます。数学教育について幅広く話し合えればと思います。お気軽に参加ください。入退室自由です！

- 日 時： 2016 年 6 月 1 日（水）13:30 から 17:00 頃まで
場 所： 上越教育大学 自然棟 718 教室
対 象： 教員，院生，学生，関心のある方
言 語： 英語。特に通訳は考えておりませんが，必要に応じて。

講演者： マリオン・クザン Marion COUSIN（上越教育大学・JSPS 外国人特別研究員）

題 目： *The textbooks on geometry in Meiji Japan (1868-1912):
witnesses of book and mathematics teaching revolutions*

（明治期における幾何学教科書：書物と数学教育の革新の証拠）

概 要： 明治期の日本では，国を挙げた近代化により，西洋数学とりわけユークリッド幾何学の学校教育への導入が進められました。その際，西洋の幾何学教科書の翻訳が大きな課題となりました。また明治期は，西洋の印刷技術も導入されたことにより，日本の書物の形態も大きく変化しました。本講演では，19 世紀後半に発行された複数の教科書を通して，数学史と書物史の同時進行をみていきます。そして，教科書が明治期に起きた書物の革新の証拠となること，教科書の内容自体が書物の形態の変化によって形作られていることを示したいと思います。

講演者： ステファン・クリヴァス Stéphane CLIVAZ（スイス・ローザンヌ教育大学）

題 目： *Mathematical Knowledge for Teaching: analysing their development in lesson study*
（指導のための数学的知識：授業研究におけるその発展の分析）

概 要： 本講演では，授業研究に関して現在進めている研究について二点お話ししたいと思います。第一に，数学指導のための教師の知識が授業研究を通していかに発展するのか，それを分析するために導入した理論的モデルを紹介します。この枠組みは，指導のための数学的知識の枠組み (Ball et al., 2008) と教師の活動の水準 (Margolinas et al., 2005) を組み合わせたもので，教室で用いられる教師の知識のみならず，授業研究の各段階で見られる数学の指導・学習を計画したり反省したりする際に用いられる知識をも分類を可能にするものです。第二に，指導方法としての問題解決を通じた指導と職能開発の過程としての授業研究の間の結びつきについての問いをみなさんと共有し，議論できたらと思います。